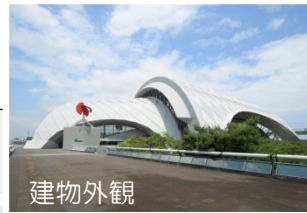


# 東京辰巳国際水泳場の後利用に関する検討について

# 東京辰巳国際水泳場 施設概要

## 1 所在地

東京都江東区辰巳二丁目8番10号



建物外観

(約0.5km [徒歩約6分]同公園内)



メインプール

50m×25m 10コース



ダイビングプール

25m×25m

## 2 施設概要

開館：平成5年8月（2020年時点で築27年）

座席数：3,600席（仮設席含め最大5,000席）

延べ面積：約22,319m<sup>2</sup>

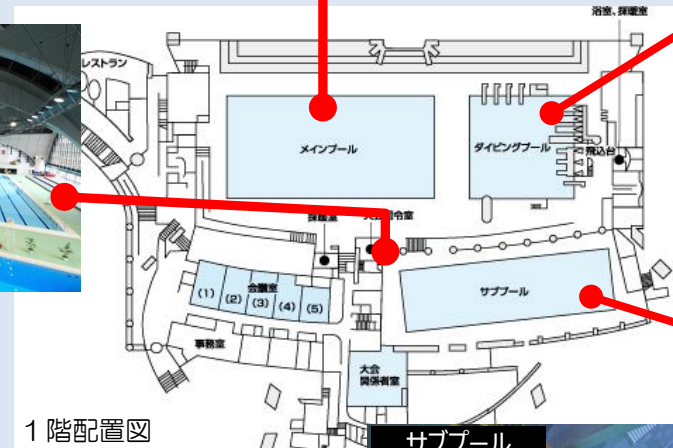
主要施設：メインプール、サブプール、ダイビングプール（右図参照）

指定管理者：オーエンス・セントラル・都水協・事業団グループ



観客席

3,600席



## 3 特色

水泳の普及振興を図るとともに、国際大会を含む大規模大会を積極的に誘致・開催

## 4 利用状況

稼働率：メイン 95.6%、サブ 92.8%、ダイビング 57.4%

年間利用者数：個人利用 42,974人、専用利用 494,859人 ※数値はいずれも平成29年度実績

## 5 2020大会会場

水球会場（オリンピック競技）



サブプール

50m×15m 7コース

# 検討における前提と検討案について

## 【前提】

- 2020大会の会場として、**オリンピック・パラリンピックのレガシーとなるようスポーツ施設としての活用**を検討。
  - ・大規模な建物構造の変更(間仕切り、エレベーターの増設等)は行わない
  - ・室内競技面等を改修した屋内スポーツ施設として活用
- 東京辰巳国際水泳場については、**東京アクアティクスセンターとは異なる機能を有する**スポーツ施設としての活用を検討。(平成29年4月「新規恒久施設の施設運営計画」)



有力な3案に絞り込み

検討案	プール (現行の建物仕様維持)	アイスリンク (プールをスケートリンクに改修)	アリーナ(体育館) (プールをアリーナに改修)
	<ul style="list-style-type: none"><li>・競泳</li><li>・水球</li><li>・水泳</li><li>・水中ウォーキング</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・フィギュアスケート</li><li>・アイスホッケー</li><li>・車いすカーリング</li><li>・パラアイスホッケー</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・卓球や車いす競技をはじめとした体育館競技</li></ul>
想定される 主な活用 方法			

※アリーナの写真は「東京都障害者スポーツガイド」(公益財団法人東京都障害者スポーツ協会)より引用

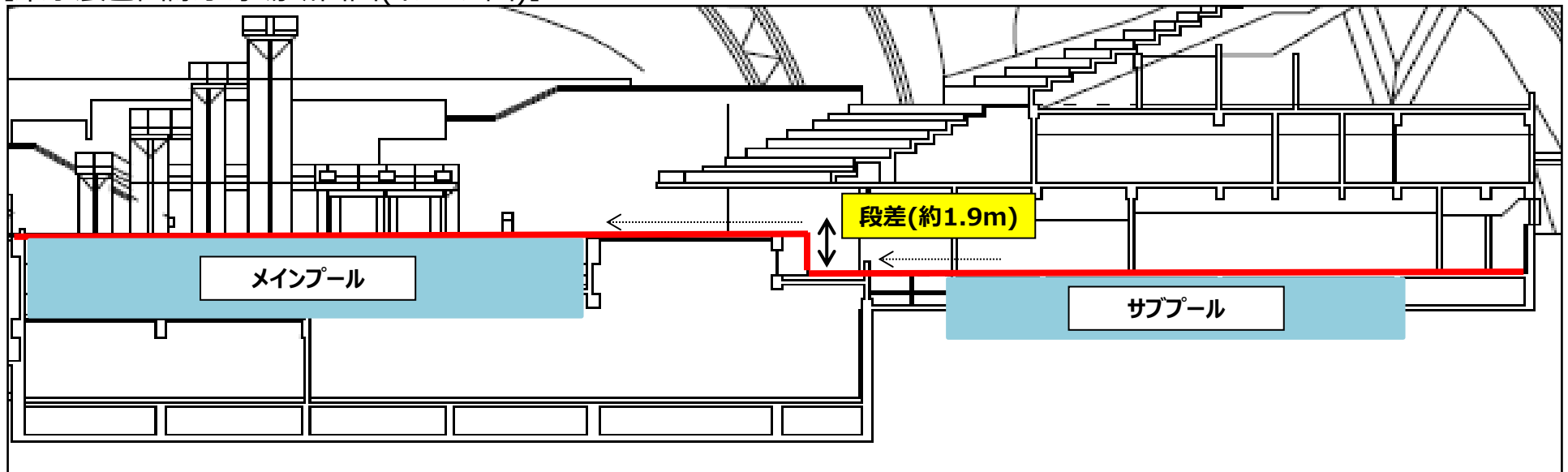


都民ニーズやコスト等を比較しながら、詳細な検討を実施

## スキップフロア構造について

- 辰巳国際水泳場は、メインプールとサブプール・運営諸室のフロアレベルが異なるスキップフロア構造となっている。
- 段差解消に関しては、既存施設であるため、フロアレベルを変更することは構造上、困難である。

【東京辰巳国際水泳場断面図(イメージ図)】



# 検討案の比較①

区分		プール	アイスリンク	アリーナ(体育館)
2020大会のレガシー等		<ul style="list-style-type: none"> <li>東京2020大会では水球会場として活用</li> <li>主な世界大会実績(過去10年)</li> </ul> (アジアエーシグループ選手権大会(H21) FINAスイミングワールドカップ(H22~H30) アジア水泳選手権大会(H28) パンパシフィック水泳選手権大会(H30))	—	—
競技団体要望等		・競技団体より存続要望あり	・競技団体、地元区より新設要望あり	・新設要望なし
東京ゆかりのメダリスト(都民スポーツ大賞)実績 (平成20年~30年) ※金メダリストについては氏名記載	オリンピック	<ul style="list-style-type: none"> <li>競泳13人(北島康介、萩野公介)</li> <li>シンクロナイズドスイミング3人</li> </ul> 計 16人	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィギュアスケート1人(羽生結弦)</li> </ul> 計 1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>レスリング5人(伊調馨)</li> <li>卓球4人</li> <li>フェンシング4人</li> <li>バレーボール3人</li> <li>バドミントン3人(高橋礼華、松友美佐紀)</li> <li>体操3人(内村航平、白井健三)</li> <li>ウエイトリフティング1人</li> </ul> 計 23人
	パラリンピック	<ul style="list-style-type: none"> <li>競泳7人(秋山里奈)</li> </ul> 計 7人	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイススレッジホッケー2人</li> </ul> 計 2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウィルチェアラグビー9人</li> <li>ゴールボール1人(若杉遥)</li> </ul> 計 10人
	計	計 23人	計 3人	計 33人
地元区の状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>辰巳以外に公立屋内プールが6施設</li> <li>近接地にアクアティクスセンターを整備</li> </ul>	・なし	・公立体育館が6施設
近年整備(予定)の都立スポーツ施設		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 武蔵野の森総合スポーツプラザ [50m](2017.11)</li> <li>■ 東京アクアティクスセンター(新設) [50m×2](2020.2予定)</li> </ul> 	■ 現在整備計画なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駒沢屋内球技場(2017.7)</li> <li>■ 武蔵野の森総合スポーツプラザ [メインアリーナ・サブアリーナ](2017.11)</li> <li>■ 有明アリーナ(新設) [メインアリーナ・サブアリーナ](2019.12予定)</li> </ul> 

## 検討案の比較②

区分		プール	アイスリンク	アリーナ(体育館)
年度		平成30年度	平成30年度	平成30年度
競技実施人口	競技実施人口【A】※1	約124万人	約27万9,000人	約432万2,000人 ※3
	施設数【B】※2 (公立・民間)	289施設	5施設 [通年は4施設]	294施設
	1施設当たり競技実施人口 【A】÷【B】	4,290人	55,845人	14,702人
競技団体登録者数	競技団体登録者数【C】	約1万5,100人	約5,300人	約13万1,400人 ※3
	施設数【D】※2 (公立・民間)	14施設 [50m屋内プール数]	5施設 [通年は4施設]	294施設
	1施設当たり競技団体登録者数 【C】÷【D】	1,077人	1,051人	447人

※1 「2018年10月1日時点の東京都15～79歳推計人口(11,169千人)」に、直近の「レジャー白書2017」における都民が年に1回以上行ったスポーツ活動の割合をかけて算出

※2 都内施設数を「体育・スポーツ施設現況調査(スポーツ庁)」より引用。平成30年度実績は直近公表データの平成27年度実績で算出

※3 アリーナの競技実施人口は5競技(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、体操)の実績、競技団体登録者数は8競技(左記5競技とハンドボール、レスリング、フェンシング)の実績